



パブリッククラウドの現状:
クラウド導入企業の調査

2011年4月

目次

エグゼクティブサマリーと分析方法.....	3
クラウド導入企業が持つ異なった見解.....	5
懐疑論者だった IT 部門が信奉者へ.....	7
IT コスト削減以上にクラウドが与えるビジネスへのインパクト.....	8
クラウド導入企業が挙げる新たな課題.....	10
クラウド導入企業は新しいパートナーシップを求めています.....	12
結論.....	13
アピリオについて.....	13

エグゼクティブサマリー

アピリオでは過去4年間に渡って、クラウドアプリケーション・プラットフォームを導入した180以上の企業様へコンサルティングサービスを提供した中で、既にクラウドを導入している組織と、今現在クラウドを評価もしくは導入したばかりの組織とでは、行動や反応が大きく異なるという考えを持つようになりました。ビジネスやITを変えるパブリッククラウドプラットフォームを導入している企業様を本調査の対象としています。

アピリオはオンラインマーケティングリサーチ会社 Itracks と共に、既に SaaS あるいはクラウドアプリケーションを導入している150社以上の北米企業(従業員500人以上、内65%は従業員1000人以上)で、IT部門の意思決定権を持つ方を対象に、以下のような質問を行いました：

- クラウドを導入した理由
- 導入して得られたこと
- クラウド導入についての今後の計画
- クラウドに対する課題

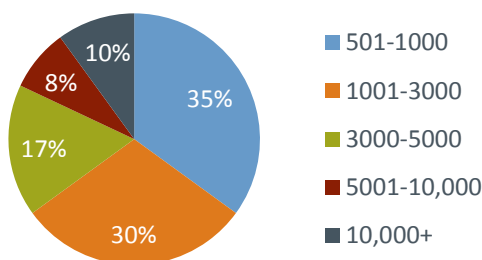
この調査結果から、IT部門の役割がクラウド導入企業では大きく変化したことが明らかになりました。既に自組織内でパブリッククラウドを活用している方々の考えや課題を理解する事で、今後さらに重要性が増すクラウドソリューションに対して、より万全な準備をする事が可能となるでしょう。

分析方法

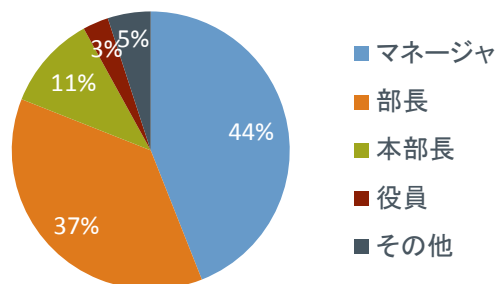
アピリオは、Itracks社とオンライン上で調査を実施しました。Itracks社はオンラインマーケティングの分野において世界トップクラスの調査会社であり、オンライン上で定性的な調査結果を抽出できるアプリケーションの特許を所有しています。回答者は各企業でIT部門の意思決定権を持つ方々です。

2010年8月11日～25日の調査期間中に155の異なる企業様から155件の回答が得られました。我々は業界をリードする(※)SaaSやクラウドアプリケーションを導入した経験を持つ、従業員500人以上の企業を絞り込み、(※Google Apps, Success factors, Workday, Salesforce CRM, Oracle CRM On Demand, Microsoft Dynamics CRM On Demand, Right Now, Netsuite or a custom app on Force.com, Google App Engine or Windows Azure)とリわけその中でも、早い時期からクラウドに熱心に取り組んだ企業、もしくは、クラウドを推奨する企業に焦点を当てました。

会社規模(従業員数)



回答者の役職



注目点

クラウド導入済み企業とそうでない企業とは異なった見解を持っているようです。クラウド導入企業は、マーケットよりも技術面でより楽観的に、短期・長期の導入計画についてより積極的に考えています。

- 60%以上がクラウドソリューションはオンプレミスと比較して、可用性、TCO（総所有コスト）、時間的効率の点で優れていると回答しました。
- 28%がクラウドソリューションに対する最大の誤解はセキュリティだと回答しました。
- 68%が3年以内に所有しているアプリケーションを最大限クラウドへ移行すると回答しました。

IT部門の懐疑論者たちもクラウドを信じ始めています。クラウドのコンセプトはITの推進要因になりえると考えられています。それだけでなく、IT部門はクラウドコンピューティングの最大の賛同者となりつつあります。

- 36%がクラウドに関する主な誤解は、IT部門から生じると指摘しました。
- 70%がクラウドソリューションはビジネスにおけるITの役割を変えた事に賛同しています。
- 79%のIT部門の意思決定者が、クラウドの将来性に期待していると回答しました。

クラウドコンピューティングはITコストの削減だけではなく、ビジネスそのものに影響を与えています。クラウドコンピューティングは、単なるITコストの削減だけでなく、ビジネスの変化に素早く対応でき、ビジネスのやり方そのものを変えています。

- 59%が「ビジネスの変化に対応できる俊敏性」を、クラウドソリューションを考える上での検討材料トップ3位に挙げています。（それに対しTCOの削減を挙げたのは47%）
- 83%が「クラウドソリューションは、ビジネスニーズの変化に素早く対応できるか？」の問いに「そう思う」と回答しました。
- 29%が「クラウドソリューションはビジネスのやり方そのものを変えたか？」の問いに「強くそう思う」と回答しました。
- 39%が「クラウドの採用が今後のビジネス全体を変える要因となる」と回答しました。

クラウド導入企業で新たな課題が浮上してきました。セキュリティや使いやすさのような基本的な課題がリストの上位にとどまる一方で、新たな課題として、クラウド間の相互連携、特定SaaSベンダーへのロックイン回避(SaaS silos)、モバイルからのアクセスなどが上位に挙げられました。

- 75%以上が「クラウド間の相互連携とモバイル経由のアクセス改善が重要」と回答しました。（ただし、未だに80%以上が「セキュリティと使いやすさが重要」と回答）
- 65%が「既存のクラウドアプリケーション改修の優先度が高い、もしくは欠かせない」と回答しました。
- クラウド間の完全な連携を実現した回答者は4%にとどまりました。

クラウド導入企業は新しい形のパートナーシップを探しています。クラウド導入企業は複数のクラウド間を連携し、次の段階へステップアップするためのパートナーを探しています。

- 15%が社内のリソースのみでクラウドプロジェクトを実行すると考えています。
- 61%が「今後はクラウド間を横断的に管理できる機能が重要になる」と強調しました。

調査結果

クラウド導入企業が持つ異なった見解

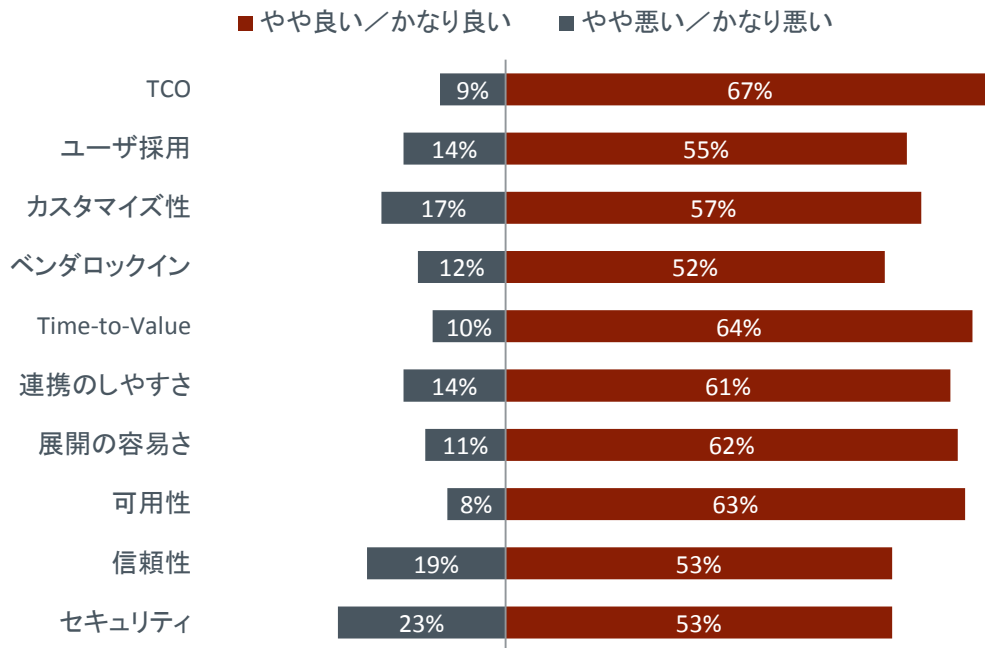
クラウドアプリケーションを導入した企業は、マーケット全体よりも技術面でより楽観的に、短期・長期の導入計画についてより積極的に考えています。

クラウド導入企業はクラウドを肌で体験しているため、クラウドソリューションについて単に調査している、あるいはパイロットプロジェクトを行っているだけの企業とはかなり違った見解を持っています。

他に行われた調査結果のほとんどは、クラウドの TCO や、Time-To-Market(市場投入までの時間)における優位性については同意しますが、セキュリティ、独自仕様による互換性欠如、カスタマイズ性、信頼性、可用性については強い懸念を持っています。しかし、クラウド導入企業の中で、クラウドソリューションとオンプレミスを比較検討した担当者は、これらの懸念は間違っているといえます。クラウド導入企業の大部分は、クラウドソリューションの TCO や時間短縮に対する利点だけでなく、可用性、開発の容易性、インテグレーション、信頼性、セキュリティの面でもより効果があることを理解しています。

彼らが経験したことを考えれば、クラウドソリューションに対する最も一般的な懸念(セキュリティ、インテグレーションの容易さ、カスタマイズ性、独自仕様による互換性欠如)の一部は誤解である、と言う意見も驚くに値しません。

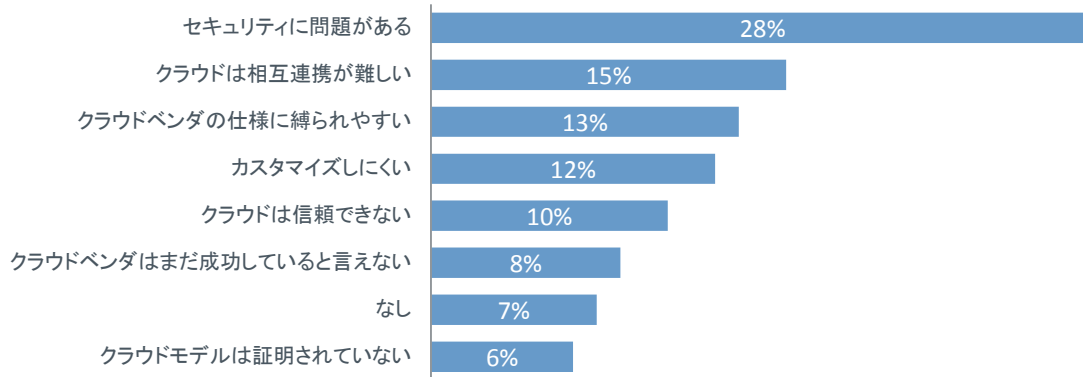
オンプレミスと比較したクラウド



注:「大体同じ」という回答を除外しているため、上記合計は 100%にはなりません。

実際、回答者の 28%はクラウドに対する最大の誤解は“セキュリティはクラウドの弱点である”と述べており、クラウドソリューションの今後に楽観的です。

クラウドに対するもっとも大きな誤解は？



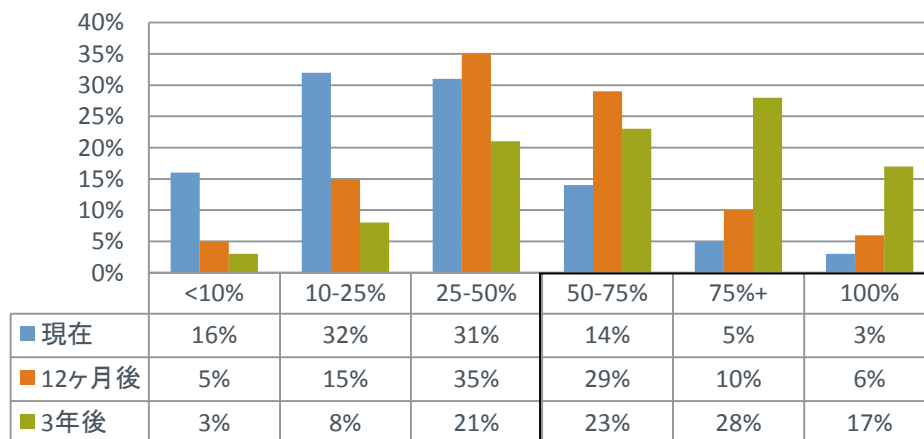
クラウドの導入状況及び導入計画について整理すると以下のような結果が得られました。

- クラウド導入企業の 84%が IT 資産の 10%以上をパブリッククラウドへ移行済み
- 22%が IT 資産の 50%以上をパブリッククラウドへ移行済み
- 45%が IT 資産の半数以上をパブリッククラウドへ移行予定であり、3 年以内にその数は 68%へ増加する見込み

これらは定性的な評価ですが、それを差し引いてもクラウド導入企業の見解は、パブリッククラウドに対する注目すべき信任であると言えます。

なお、Sandhill が行ったクラウドに関する市場調査(クラウド未導入の企業も含む)では、今後 3 年間で回答者の 80%が IT 予算の 7~30%をクラウドに投資すると見込んでいます(“Leaders in the Cloud”, Sandhill グループ, 2010 年 5 月)。

パブリッククラウドに移行した IT資産の割合

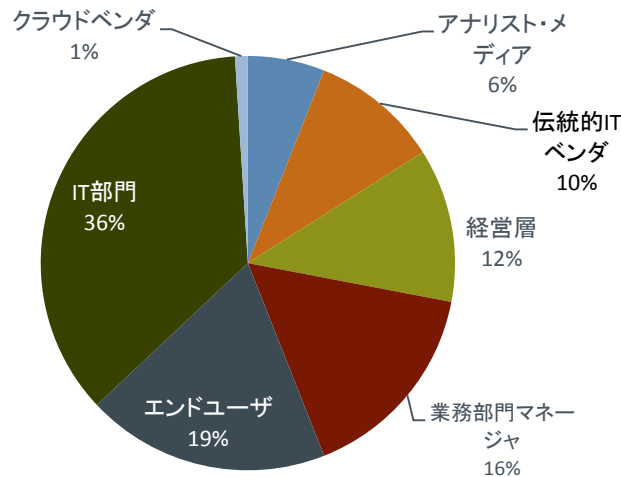


懐疑論者だった IT 部門が信奉者へ

IT 部門はクラウドに対する誤解の多くを後押しするものとして見られてきましたが、一方で IT 部門はクラウドコンピューティングの最大の支持者になってきています。

クラウド導入企業でさえ、IT 部門はクラウドに対して懐疑的であると認めています。例えば、信頼性不足のようなクラウドに対する誤解を説明する際に、IT 部門の意思決定者は、彼ら自身が誤解を招く立場になってしまうこともあるようです。彼らは、クラウドへの誤解の大部分は、メディアや従来の考えの IT ベンダによるものではなく、むしろ彼らの組織内から出てくるように感じています。

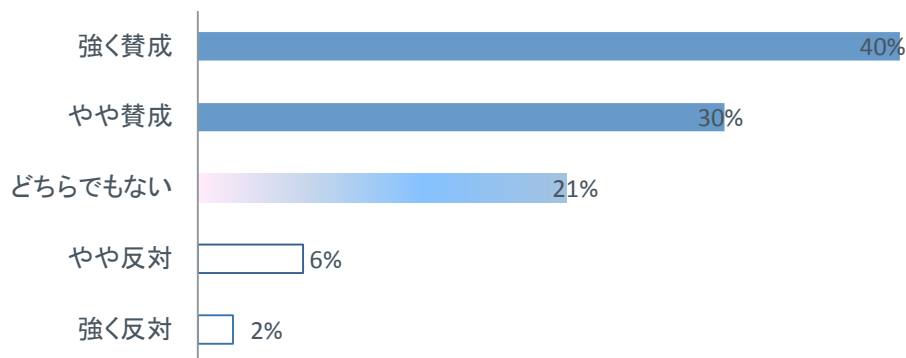
クラウドに対する誤解の主な要因



そういった懐疑論も、クラウド化を進めた企業の中では、クラウドサービスがビジネスと IT 部門に与えるポジティブな影響によって強い信頼に変わりました。これまで IT 部門は柔軟性のないオンプレミスな基盤を管理しなければならなかったため、ビジネスニーズへの迅速な対応が困難となっていました。クラウドの本格的な展開が進むにつれ、クラウド導入企業は IT 部門の役割が以前とは変わってきていると感じています。彼らのほぼ 70%が、クラウドが“ビジネス上の IT 部門の役割を変え、今や IT 部門は理想的なビジネススタイルを可能にする者として見られている”と述べています。

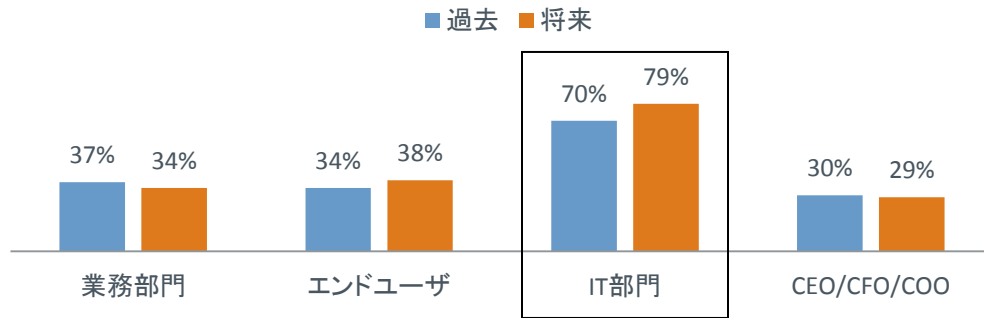
クラウドソリューションの影響

IT部門は理想的なビジネススタイルを実現する存在か？



クラウド導入前後にある見解の違いは、意思決定プロセスにおける IT 部門の役割にあります。クラウドアプリケーションはビジネスにとって IT を拡大させる手段の一つとしての役割を演じてきましたが、実際にクラウド導入企業の 70%が、IT 部門は意思決定プロセスの中でクラウドの推進者の一人であったと報告しています。そして、クラウド導入企業はさらに IT 部門の役割が大きくなることを期待しています。もちろん、実際の意思決定の多くはビジネス・経営管理・エンドユーザと連携して行われることとなりますが、IT 部門はその決定の上で不可欠な部分となるでしょう。

クラウド導入を推進したのは誰か？

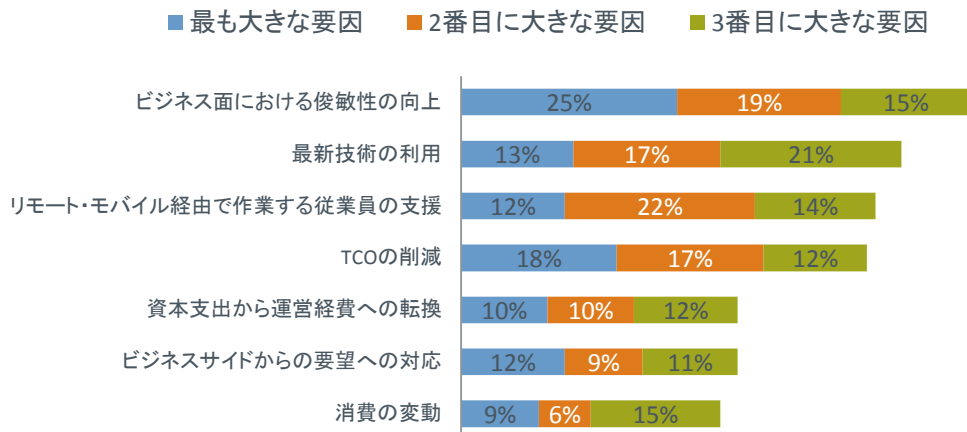


IT コスト削減以上に、クラウドが与えるビジネスへのインパクト

いくつかの企業では、パブリッククラウド上へのソリューションの実装を進めています。それは IT コスト削減だけを目的としたものではなく、ビジネス環境の変化に俊敏に対応することを目的としています。そして、その取り組みが彼らのビジネスのやり方そのものも変えています。

依然として、企業がクラウドアプリケーションを採用する主な理由に IT の TCO(総保有コスト)削減が挙げられますが、ビジネス環境への迅速な適応力が最も重要な理由として挙げられるようになりました。クラウドを導入する要因として、最新のテクノロジーの活用およびオフィス外で働く社員のサポートが挙げられます。クラウド導入企業は、成長とビジネスイノベーションへの支援を期待するとともに、クラウドソリューションがそれらを達成する方法のひとつであると捉えています。

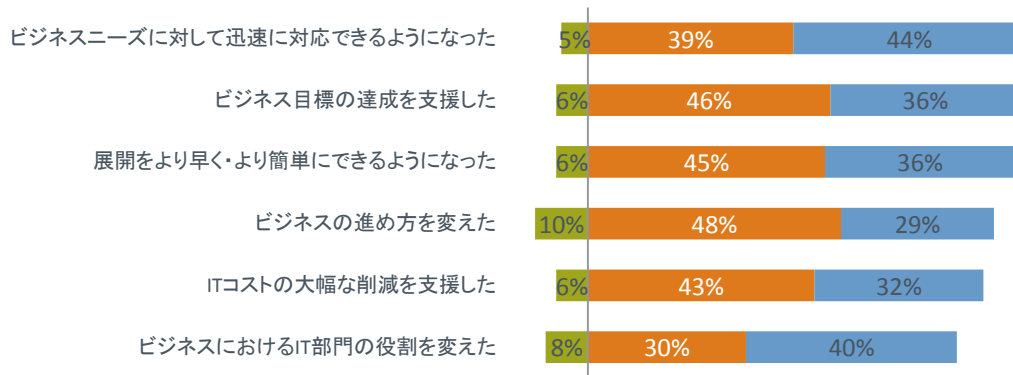
クラウドを導入したきっかけ



クラウド導入企業はクラウドを選んだ目標が達成できていると述べています。80%以上の回答者が、ビジネス要求により迅速に応えることができるようになり、ビジネス目標を達成できると言っています。彼らは、これらの効果に加えてクラウドソリューションがこれまでよりも容易に配置できて、かつ、運用費用が安く済むことを知ったのです。クラウドは、ビジネスにおける企業の IT 部門の役割の変革に寄与しました。70%以上のクラウド導入企業が、IT 部門は今やビジネス実現のための役目を負っていると言っており、77%は、クラウドソリューションが彼らのビジネスに貢献したと言っています。

クラウドソリューションの導入効果

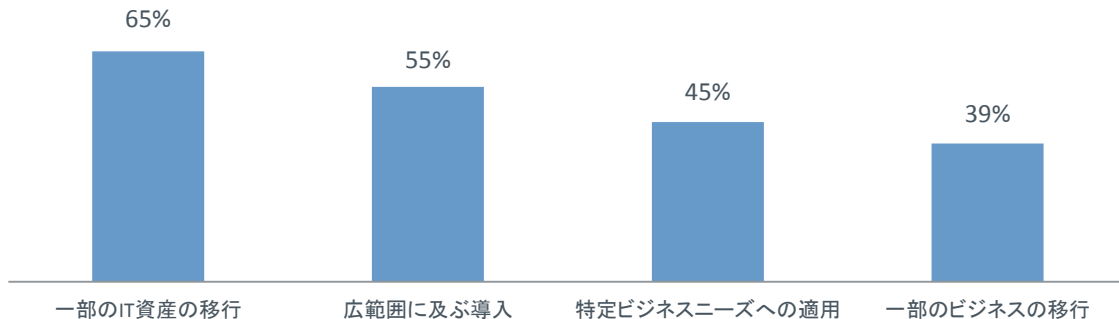
■ やや賛成 ■ 強く賛成 ■ やや/強く反対



注：“どちらでもない”という回答を除外しているため合計は 100%になりません

クラウドソリューションが与えるビジネスへのインパクト、およびビジネスにおける IT 部門の役割を考えると、将来的に IT 部門の意思決定者がより包括的なクラウド戦略を立案するようになることは、驚くことではありません。いずれ、50%以上の企業がクラウド・ロードマップ策定を計画し、65%はクラウド・ロードマップを広範な IT 変革の一部として捉えています。ほぼ 40%の企業が、クラウドソリューションをビジネスの変革の一部であるとみています。

今後のクラウド導入計画



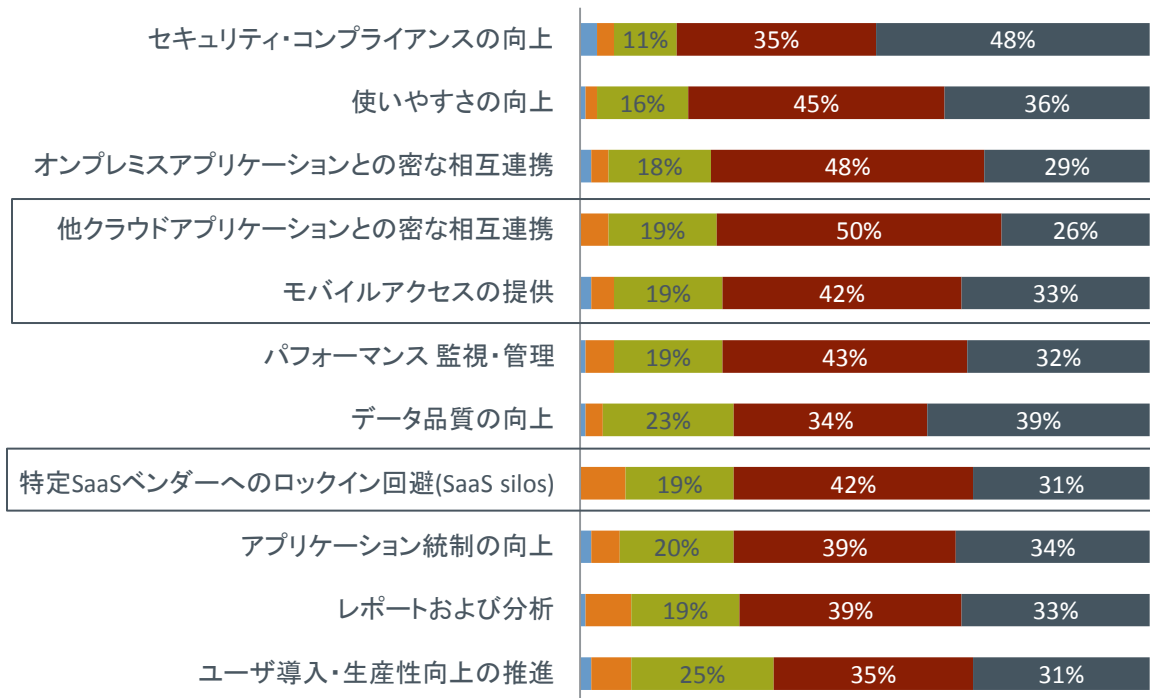
クラウド導入企業が挙げる新たな課題

セキュリティや扱いやすさにおける課題は依然として重要視されていますが、クラウド間の相互連携や特定 SaaS ベンダーへのロックイン回避(SaaS silos)、モバイル端末からのアクセス改善など、新たな課題が重要視されるようになっていきます。

私達は、クラウド導入企業がクラウドソリューションの熱心な信奉者であり、また、自らの IT 戦略の核となるプランを立てていることを見てきましたが、すべてにおいて展望が明るいというわけではありません。クラウド導入企業は、セキュリティ、管理機能、他システムやクラウド間のインテグレーション、データ品質の向上を引き続き求めています。これらは常に IT 部門の最優先事項ですが、これ以外の新しい課題を認識し始めたところです。それらは、主にクラウド間の相互連携、特定 SaaS ベンダーへのロックイン回避(SaaS silos)、モバイル機器へのデータ提供、ユーザーの生産性向上といった分野における課題です。

クラウドアプリケーションの改善課題

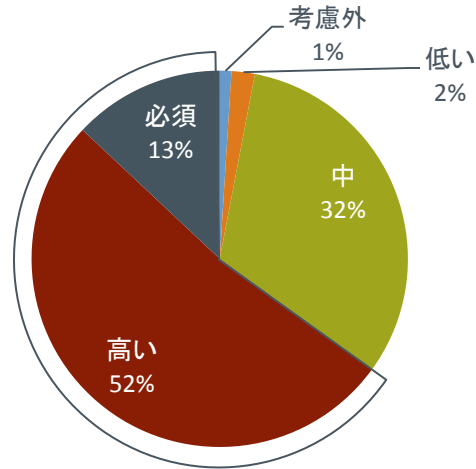
■ 重要でない ■ ほとんど重要でない ■ やや重要 ■ 重要 ■ 非常に重要



注：新たに登場した課題を強調

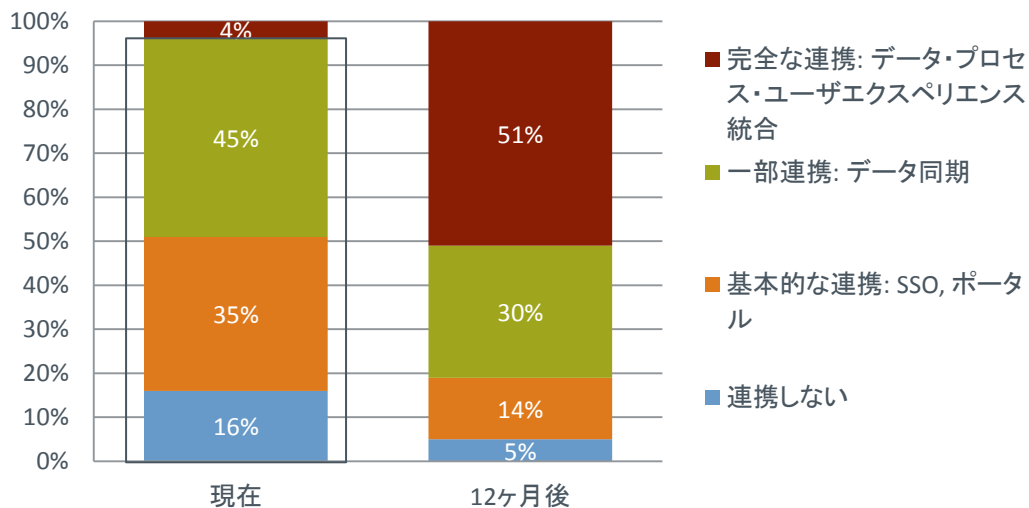
クラウド導入企業にとって、これらの課題への取り組みは非常に重要です。65%を超える企業では、クラウドアプリケーションの強化は、企業方針の見地から、最優先事項あるいは必要不可欠であると述べています。

クラウドアプリケーション改善に対する優先度



しかし、クラウド間インテグレーションを進めている企業は少ないです。回答者の75%以上は、クラウドアプリケーション間の連携が重要であると言っています。しかし、アプリケーションの完全な連携に成功しているのは、僅か4%に過ぎません。50%以上は、シングルサインオンのような基本的な連携を行っているだけであると回答しています。ほとんどのクラウド導入企業は、12ヶ月以内に、導入済みのクラウドアプリケーションをより効果的に連携させたいと考えています。また、50%を超える企業が、各アプリケーションのデータ、プロセス、ユーザー体験を相互連携することを計画しています。この劇的なシフトが12ヶ月の間に可能かどうか注目されています。

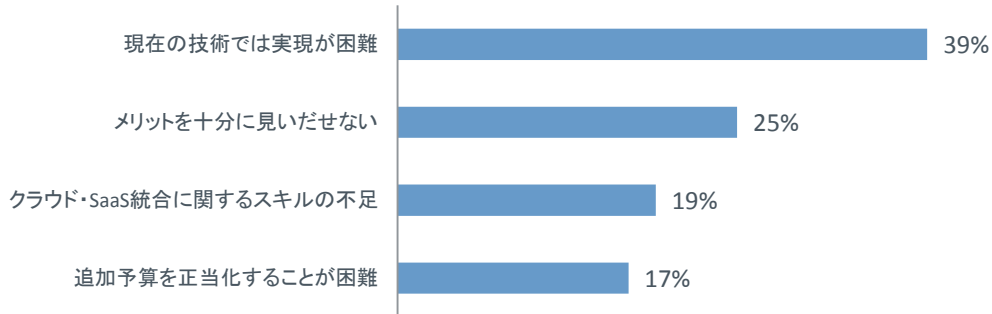
どの様にクラウドを連携したか？



クラウドアプリケーションの連携における主なハードルは、現状使われている技術の状況です。クラウド導入企業の選択肢としては、クラウドアプリケーションと既存オンプレミス・システムとの連携を行うか、または、Cast Iron、Boomi、

Conformity といったベンダのクラウド連携ソリューションを組み合わせた独自のソリューション構築が考えられます。どちらの選択肢においても、40%にのぼるクラウド導入企業にとって、今も非常に大きな技術的課題です。これ以外の課題としては、クラウドアプリケーションを効果的に連携したビジネスでの実例と、関連スキルの欠如が挙げられます。

クラウド間の相互連携を阻害する主な要因

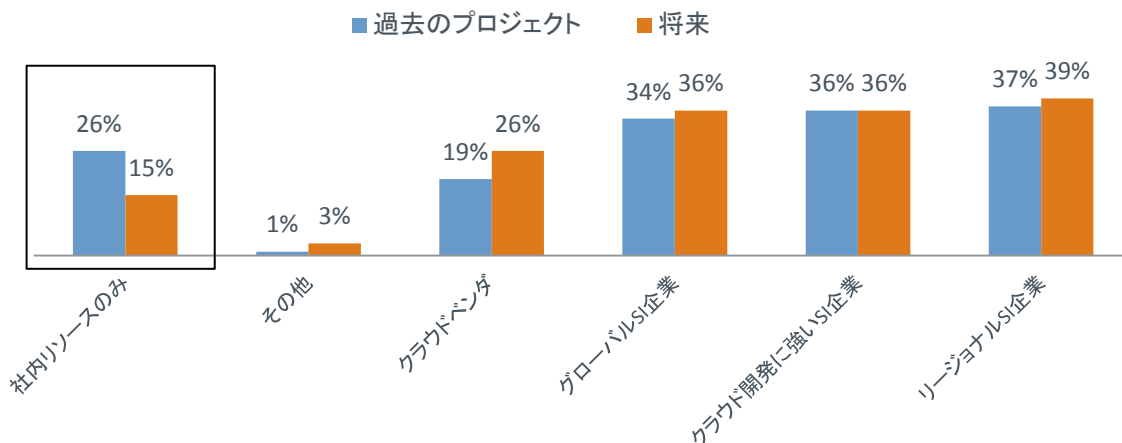


クラウド導入企業は新しいパートナーシップを求めています

導入企業は皆、複数のクラウドを相互連携でき、次の段階へとステップアップ出来るパートナーを探しています。

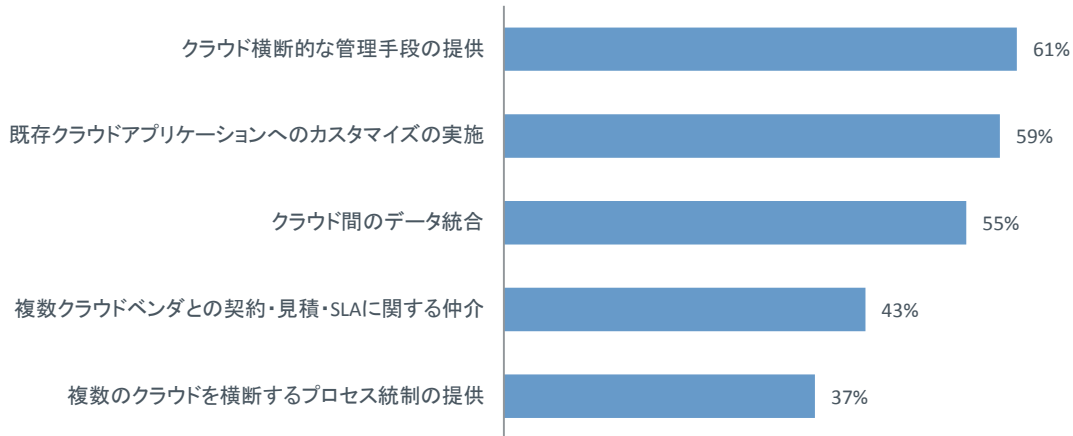
クラウド導入企業はこういったクラウド特有の課題に直面しています。彼らは、内部のリソースを補完できる、もしくは、専門知識を提供できる外部のパートナーを探しています。また、彼らの 1/4 は過去に社内でクラウドプロジェクトを実行したものの、85%が将来的に外部からの助けを借りたいと回答しました。彼らはグローバル、リージョナルを問わずクラウドに焦点をおくシステムインテグレータを広く求めています。クラウドスペシャリストはこれまでに十分な信頼を獲得し、大手 SI 企業と同じように、信頼されるパートナーとして認識されるようになりましたが、特定のタイプのパートナーが特に好まれているということではありません。

クラウドパートナーは？



クラウド産業が発展すると同時に、こういった外部のパートナーによって提供されるサービスも発展していかなければなりません。クラウド導入企業は、今後想定されるクラウドソリューション間のインテグレーションや管理等の様々な課題に対して、助けを求めています。

クラウドパートナーに望まれる能力



結論

クラウドに対する見解を尋ねる相手は、クラウド導入企業が最良の選択肢ではないでしょうか？彼らの見解と着目点はマーケットとは違った内容になっています。企業のクラウド導入が加速する中、新たな課題を見出すために、クラウド導入企業の見解に耳を傾けるべきです。

アピリオのミッションは企業のクラウド導入を速めることです。昨今のクラウド導入企業をサポートしていくのはもちろん、これからクラウドを導入する企業も支援します。クラウド導入企業からの意見やフィードバックは、我々がマーケットに提供する製品やサービスを考えていく上で非常に重要です。私達は、クラウドリーダーとの日々の仕事を通じ、今回のような”State of the Public Cloud”、エコシステム調査等を、今後も行っていきます。

アピリオについて

アピリオ (<http://www.appirio.com/jp>) は 2006 年の設立以来、企業のクラウドアプリケーションとプラットフォームの活用を手助けする製品とプロフェッショナルサービスを提供するクラウドソリューションプロバイダです。これまで、180 以上の企業様において、Salesforce.com や Google、Amazon を利用したミッションクリティカルなクラウドソリューションの導入、構築、そして管理をお手伝いしてきました。更に、5000 社以上のお客様がクラウドプラットフォームの拡張にアピリオの製品をご利用いただいています。我々のイノベーションと経験は BusinessWeek から America's Most Promising Startups として、また AlwaysOn から the On-Demand Company of the Year として表彰されました。アピリオはアメリカと日本にオフィスを持ち、Sequoia Capital と GGV Capital から資本支援を受けています。

お問い合わせ先

株式会社アピリオ
03-6447-0340
japan@appirio.com